

地下空間のあるバガン宗教建築物に関する研究
ニャウンウー地域の Taung-Kyanzitta-umin 僧院の調査報告
Study of religious architecture with underground spaces in Bagan
Survey report on Taung-Kyanzitta-umin monastery in Bagan area

○さくらここう¹, 小島陽子²

*Sakura Kokoo¹, Yoko Kojima

Abstract: The purpose of this research is to clarify the characteristics of Bagan religious architecture which has underground parts by focusing on the architectural aspects of a basic monastery in Bagan. This paper will focus on and analyze Taung-Kyanzitta-umin monastery.

1. はじめに

世界遺産として登録されているバガン建築は 11 世紀から 13 世紀のバガン王朝時代を中心に建造された上座部仏教の宗教建築である。11 世紀以前のピュー王朝時代や 13 世紀以降のコンバウン王朝の時代にバガン地方に建造された宗教建築が多く見られる。

バガン建築はパゴダや祠堂、僧院、石窟のように形態や機能の面から分類されているが、地下空間のある建築物は僧院と祠堂に分かれる。その中で僧院は僧侶が利用する空間で、現在も僧院として利用されており重要な研究対象である。しかし、これまでの研究ではあまり取り上げられてこなかった。

本稿では、2025 年 9 月に現地調査を行った地下空間のあるバガン宗教建築物のうち、ニャウンウー地域の Taung-Kyanzitta-umin 僧院について報告を行う。

2. 既往研究

バガン建築に関する研究は 1990 年代にフランス極東学院によってほぼ全ての平面図や写真が載っている基礎的な資料がまとめられている。それらの資料を用いて、時代による建築形態の変遷についての研究が行われた。特に内部空間を持つ塔状建築については 1999 年にチョー・ウーによって 7 つのプロトタイプに分類する研究が行われた。祠堂建築を対象として細分化して分類する研究が行われた。

また、バガン建築の修復や保存が盛んになると、材料や建築技術も着目された。パゴダや祠堂、僧院、石窟などの構成や時代が明らかにされつつあるが、地下空間のある僧院については平面や写真などの基礎資料が限られており、特に僧院の建築計画や使われ方については明らかになっていない。

3. 研究方法

本研究は、文献調査と現地調査からなる。

文献調査ではピシヤール・ピエールをリーダーにフランス極東学院によって報告されたバガン建築の基礎情報から、地下空間のある建築物について調査する。時代や場所、建築形態の情報を基に文献調査を行ったところ、26 の地下空間のある僧院が存在した。これより、現地調査では 26 の建築を対象とする。これらの地下空間のある建築物を表にまとめ、インベントリーシートを作成する。さらに、自分で作成したインベントリーシートから時代、地域、形態、構造などの様々な視点から分類をし、平面図や写真からの分析を行う。

4. バガン地域の地下空間のある建築物について

地下空間のあるバガン建築は平面図から半地下タイプと地下タイプの大きく 2 つのタイプに分類される。

地下空間のある僧院の構成として特徴が見られる部分は階段、廊下、中庭、房である。

階段は地上から地下空間を繋ぐ構造物であり、僧院によって階段の段数や広さは異なる。地下空間に深く潜るような僧院は階段が長くなる。

廊下は 2 つの異なる空間を繋ぐための構造物である。廊下の天井はヴォールト状になっていることが多い。廊下の幅や距離は、僧院によって様々である。

中庭は地下空間のある僧院でしか見られない空間である。中庭が廊下に繋がっていて、房に辿り着くようになっている。基本的に中庭は僧院 1 つに対して 1 つだけである。

房は僧房のような個室空間である。房は矩形が多く、僧侶たちが瞑想の空間として利用していることがある。2 つの房が廊下を介して、繋がっている場合もある。房の数は僧院に対して 1 つ以上計画されている。

1 : 日大理工・学部・建築 2 : 日大理工・教員・建築

5. Taung-Kyanzittha-umin について

Taung-Kyanzittha-umin は Taung-Kyanzittha 僧院の敷地内にある地下空間のある建築物である。図1はエーヤワディー川を含むバガン遺跡の地図であり、オレンジ色の点が Taung-Kyanzittha-umin の位置である。図2の平面図と図3の断面図からこの建築物は地下に存在する中庭、廊下、房に辿り着くための階段が存在することが分かる。(図2) 階段には壁の凹凸から光の見え方に変化がある様子が見られる。(写真1) また、中庭は屋外空間であるが、(写真2) 実際には2015年に建造された木造の屋根がかかっている。廊下は入口の階段のある北側以外の東西南の3方向に伸びている。写真3は南側の廊下であり、房に繋がる様子が見られる。その先の房には小上がりとなった場所に瞑想が出来るように床シートが敷かれ、瞑想する際に使用可能な座布団が配置されている。(写真4)



図1 バガン地図

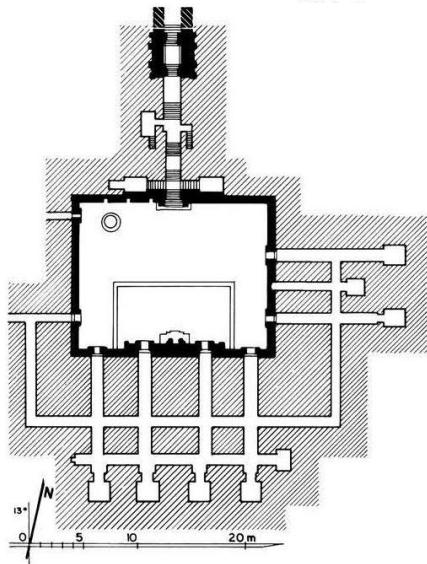


図2 Taung-Kyanzittha-umin の平面図^[2]

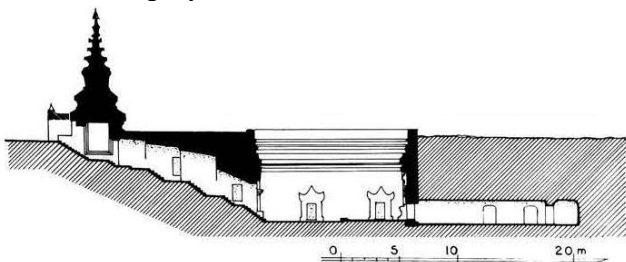


図3 Taung-Kyanzittha-umin の断面図^[2]

6. まとめ

現在も使用されている地下空間のある建築物の1つである Taung-Kyanzittha-umin について、僧院で見られる特徴について報告を行った。今回の調査では、同じような平面を持つ地下空間の僧院を確認した他、配置が異なる建築物があり、いくつかのタイプに分類できる。今後は、地下空間のある建築物で現地調査を行った8遺跡について、詳細な分析を行い、地下空間のある建築物について考察を進めていきたい。

7 参考文献

- [1] 小学館編集部, 編. 『世界美術大全集 東洋編 12 東南アジア』. 小学館, 2000.
- [2] Pichard, Pierre. Inventory of Monuments at Pagan: Vol.1 ~8. UNESCO & École Française d'Extrême-Orient, 1992.



写真1 Taung-Kyanzittha-umin の階段 (左)



写真2 Taung-Kyanzittha-umin の中庭 (右)



写真3 Taung-Kyanzittha-umin の廊下 (左)



写真4 Taung-Kyanzittha-umin の房 (右)